

四大戦 部便り

目次

1. 四大戦 講評
 - 1.1 監督より
 - 1.2 主将・女子主将より
2. 四大戦 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 自己記録更新者一覧
6. 2018年度部内五傑
7. 2018年度東大記録更新者一覧
8. 主務より

1. 四大戦 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の四大戦は、梅雨も明け、好コンディションの中、二種目で東大記録が生まれました。

男子棒高跳で三宅が5m20のPBで大会MVP。2回目でクリア、踏切直前のスピードにはまだ改善余地もあり、日本インカレでの入賞の期待が高まります。

女子は内山が三段跳で11m81(公認は75)の好記録で東大新。惜しくもインカレ参加標準は突破できませんでしたが、安定して70以上の跳躍を見せました。

総合得点はリレーのバトンミスも響き、惜しくも一位の学芸大学に及びませんでしたが、エース陣が七大戦に向けて流れを作ってくれましたので、二番手三番手もしっかり続き、一点でも多く得点を積み上げていきたいと思えます。

1.2 主将・女子主将より

主将・近藤秀一

OB・OGの皆さま、大変暑い中会場に足を運んでくださりありがとうございました。

今回の四大戦は、本命である七大戦に向けて最終チェックの場として臨みました。チームの目標は東京学芸大学に勝利して優勝することでした。

結果は2位でした。学芸大学との差は12点でした。当日のミスやエントリー時の見込みの甘さで大きく得点を失ってしまったことは反省しなくてはなりません。また、中堅層が堅実に得点を重ねたものの、優勝者数はのべ3人しか出すことができませんでした。一方で、フィールド種目で好記録が多く生まれたことはトレーニング成果が現れた点で良いことでした。

七大戦では格上選手との対決となる中で、萎縮せず、だからといって浮足立たずに自分の力を出しきるメンタリティーが必要となります。チーム全体として勝ち癖が不足している選手が多いので、日々の練習から意識づけを行なっていきます。

七大戦まであとわずかです。今までのトレーニングの成果を出し切れるよう、入念に調整を行ってまいります。これからもご支援ご声援の程、よろしくお願い致します。

女子主将・高石涼香

OB・OGの皆様には日頃より多大なご声援・感謝のほど誠に感謝しております。

女子パートは今回四大戦に臨むにあたり、各種目で七大戦に繋げる形でそれぞれが順位を狙うことを目標としました。とりわけ1500mや三段跳は対校種目となることが少ないため、専門としている藤原(4)・内山(3)などの選手が順位を狙って結果を残すことが期待されました。しかし藤原(4)と荒木(4)はここ最近足の調子が芳しくなく、完治を優先させて出場を回避した結果、内山(3)のみの出場となりました。内山は三段跳で11m81(+2.4)という結果で2位という好記録・好成績を残しました。追い風参考ではありますが、関東インカレの標準が11m80であることを考えますとこれからのインカレ標準切りに大いに期待がかかります。女子パートは跳躍に新たな顔ぶれとして谷口(1)を迎え、計8人で七大戦に臨むこととなりますが、今回四大戦に出場しなかった選手も、しっかりと調子を合わせていけるよう短い期間となりますが精進してまいります。

七大戦での女子パートの活躍の報を皆様のもとにお届けできるよう、一同頑張ります。引き続きよろしく願い致します。

2. 四大戦 試合経過

◎トラック種目

9:30 男子 5000mW 決勝

保田(1年)、松原(1年)の出場。

序盤から、資格記録の速い二人の選手が飛び出し、保田は先頭から5mほど離れた3番手となる。松原はスタート時には4番手だったものの700m地点で保田に追いつく。その後は二人とも徐々に前との差を詰めていき、保田は入りの1000mを4'50、松原は4'51で歩き、1000m地点で2番手の選手をかかわす。その後保田は1200m地点あたりで松原を離し、次の2000m通過、3000m通過を4'44、4'47と安定した歩きで自らのペースを保ちながら、1番手の選手との差も少しずつ縮めていき、3500m地点手前でついに追いついた。松原は単独歩ながら、ラップは4'56、5'12と耐えるレースを展開。その後先頭2

人は抜きつ抜かれつのデッドヒートを繰り広げ、ゴール地点まで2人の勝負がもつれるかと思われたが、保田は4400m地点での相手の仕掛けに後れを取り、差を10mほどに広げられてしまった。4000m通過の時点で4'48だったラップをフィニッシュ時では4'33にまで上げて必死に追いすがすが、そのまま23'44"28の2着で4点獲得。松原は4000m通過、フィニッシュ時で5'23、5'22とペースを維持し、25'46"66の3着でゴールし、3点獲得であった。

上級生を欠いた中で一年生が奮闘し点数を確保したことで、今後へのいい弾みになった。

10:10 男子 4×100mR 決勝

竹井(D3年)-阿久津(3年)-井上(2年)-村井(3年)の走順で、5レーンに出場。100mの持ちタイムが10秒台の4人を揃え、今年9月に行われる全日本インカレ標準(40"55)を上回るタイムを狙う。

号砲とともに4校が一斉にスタート。1走の竹井が素晴らしいスタートで他校を引き離していく。流れるようなバトンパスで2走の阿久津へ。続く3走の井上へのバトンパスもスムーズに決まり、スピードに乗ってレースを展開していく。しかし、4走の村井へのバトンパスの際、井上が追いつくことができずにテイク・オーバーゾーンを超えてしまう。失格という結果に終わった。

今回、勝てるはずだったレースをバトンミスによって落としてしまった。今後バトンミスが起きないように、更なる練習が必要であることは言うまでもない。しかし、それだけでなく、ミスが起きてしまっても何とかしてバトンをつなぎ記録を残すことも重要だ。バトンで大きな失敗をしてしまっても何とかつなぎきれば、たとえ1点でも得点を獲得できる可能性は残されている。

七大戦まで残り3週間である。この期間でバトンパスの精度、さらには個々の走力を今以上に向上させ、七大戦で優勝し雪辱を晴らしたい。

10:35 男子 1500m 決勝

2レーンに古賀(3年)、6レーンに油井(4年)の出場。天候晴、気温31度、湿度70%とかなり蒸し暑い中でのレースとなった。資格記録では古賀が3番手、油井が5番手。出場人数は8人と少ないが、資格記録が3分台の選

手もおり、レベルの高いレースになることが予想されるなか、なるべく上の順位をつかみ取ることが目指された。

一周目の通過は手元の時計で69"5と比較的スローな入りとなった。そのままほぼ全員が集団となって800mの通過は2'20"4。直後に古賀がペースを上げ集団の後方から2番手にまで位置を上げる。1000m通過とともに古賀は先頭にでも、ペースが上がりきらず1200m地点で再び集団に吸収される。3'27"3で1200mを通過。そこからペースが一気に上がり、先頭集団は群大1人、学芸大1人、東大2人の4人に絞られる。共に必死のスパートをかけるも、ホームストレートでは更に差をつけられてしまい、油井が4'12"00の3位、古賀が4'12"44の4位となった。対校得点は7点であった。

更にレベルの高いレースが予想される七大戦に向けて中堅層のさらなる強化が急務となるだろう。

11:10 男子 400m 決勝

5レーンに伊藤(3年)、7レーンに小嶋(4年)の2名が出場した。レース前での資格記録では小嶋は2番手、伊藤は3番手であり、好記録、そして高順位を狙っていきたい。

号砲が鳴りレースが始まった。一発で飛び出した両選手はレースの前半から積極的に飛ばして行った。バックストレート中盤で小嶋は首位を争い、伊藤も懸命に上位を追い食らいついていく。そして小嶋は2位、伊藤は3位争いをしながらホームストレートへ突入。しかし、ホームストレート中盤で両選手ともに他校の選手に追い上げられて順位を落とし、小嶋は50"70の4位、伊藤は51"73の5位でフィニッシュ。このレースで東京大学は小嶋が3点、伊藤が2点の計5点を獲得した。

記録としては両選手ともに資格記録よりほぼ1秒落ちたタイムに終わった。両選手にはこの試合で得た教訓を生かし、3週間後に迫った七大戦では各々の力を最大限に発揮して大いに活躍してくれることを期待したい。

11:45 男子 110mH 決勝

5レーンに増田(1年)、8レーンに本田(2年)の出場。全部で7名が出場し、資格記録のランキングはそれぞれ6番と5番であった。本田は先日の国公立戦で大学ベストを更新しており、また増田は大学初の対校枠での出場

あるため、その勢いそのままランキングを覆す上位入賞が期待される。天候は快晴で、非常に暑かった。一方、風は強い向かい風であり、番狂わせが起こりそうなグラウンドコンディションであった。

レース序盤は2レーンの群馬大学の選手が先行するものの、増田もなかなか良いスタートを見せ、3台目のハードルを越えて4番手につける。しかし、中盤からは強い向かい風を受けて徐々に失速、後半にはハードルに足を当てる場面も見られ、苦しい展開となった。対して本田は、前半に少し出遅れたものの中盤から後半にかけて前を行く選手を次々とかわしていった。

結果としては本田が16"16の3位で4点獲得、増田が16"86の6位で1点獲得となった。このとき風は向かい風4.2mであった。増田は高校時代のPBを初戦で更新するという素晴らしい結果となった。本田も強い向かい風の中でこのタイムで走ることができたということは大きな収穫になったと思う。両者とも七大戦の対校選手であり、そこでの大幅なPB更新と得点の獲得を期待したい。

12:20 男子 3000mSC 決勝

この種目約一年ぶりの阿部(3年)と最近調子のよい栗山(3年)が出場。気温31度かつ真昼という厳しい環境での走りが要求された。

スタート直後から一人の選手が飛び出し、阿部がその後ろにつく一方、栗山は3位集団を引っ張り、自分のペースでレースを進めた。このまま1kmの通過は阿部が3'01、栗山が3'09。しかし4周目に阿部がペースダウンしはじめ、先頭の選手から大きくおくれを取る。栗山は集団が二人になったのちも安定して刻み、2000m付近で栗山が阿部を抜き2位に浮上。この1kmのラップは阿部が3'24、栗山が3'13。栗山はラストでペースを上げた後ろの選手においていかれて3位となりそのままゴール。阿部はその後ペースが落ちて、一人に抜かれて5位でゴールした。最後の1kmは栗山が3'15、阿部が3'40。結果としては栗山が9'38"88の3着で4点獲得、阿部が10'02"73の5位で2点獲得であった。

ペース配分に難があった阿部、自己ベストながら勝ちきれなかった栗山ともに、まだまだ好記録の余地はあるため、七大戦での活躍を期待したい。

12:50 男子 100m 決勝

4レーンに井上(2年)、6レーンに阿久津(3年)の出場。申請記録では井上が10"77で一番目の持ちタイム、阿久津が10"85で二番目の持ちタイムであり、高得点が期待された。

天候は晴れで、気温が高く、風がかなり強く吹いていた。号砲が鳴り、選手が勢い良くスタートする。序盤いきなり3レーンの埼玉大の選手に先行される。しかし、そこから必死に食らい付き、井上が70m付近でその埼玉大の選手を抜き、トップに立ち、阿久津もそれに続いた。そのまま他大学の選手を寄せ付けずに、井上が11"01の1位でフィニッシュ。6点獲得した。阿久津は11"11の2位でフィニッシュ。5点獲得した。この時風は-2.3mであった。

両選手とも、期待通りに1位と2位を取り、安定した走りを見せた。今後とも短距離のエースとして両選手のさらなる活躍に期待したい。

13:40 男子 400mH 決勝

3レーンに本田(2年)、6レーンに柏木(2年)の出場。5人で走るタイムレースで、他3名はいずれも本田の資格記録59"76を大きく上回る格上の相手とのレース。

レース序盤両選手ともスムーズにハードルを越えていく。しかし、資格記録の示す通り、他大の選手が強く、おくれをとってしまう。レース後半、高い気温の中、すでに午前に対校男子110mHに出場していた本田は少し苦しい走りになってしまう。柏木は少し余裕を残していたか、最後のハードルを越えてから粘りをみせ、57"54の4位で2点獲得。本田はそれに続き57"89の5位で1点獲得。結果東京大学は合計3点で獲得を獲得した。

他大の選手との差が明らかとなったが、当日の本田のコンディションや、まだ柏木の経験の少なさを考慮にいと、伸び代があると感じられた。今後の試合にも期待したい。

14:00 男子 800m 決勝

1レーンに玉木(1年)、5レーンに池野(1年)の出場。練習の調子から1年生の2人が初めての対校選手に抜擢された。玉木は資格記録でトップに入っており、2人揃っ

ての上位入賞と得点が期待された。気温が30度を超える中でのレースとなった。

スタートから玉木が飛び出し、積極的にレースを引っ張る。池野は4番手で軽快に前を追う。400mは玉木が58"3、池野が58"8での通過。450m付近で玉木が順位を落とし、バックストレートで前の集団と離され7番手となる。池野は、集団に順調に前についていき、残り200m地点で3番手と十分優勝を狙える位置につける。しかしラストスパートが思うようにはかけられず、2'03"43の6位でゴール。玉木は残り150m地点で学芸大の選手に抜かれ、2'07"14の8位でゴールした。

2人ともベストや目標からは程遠い結果となってしまった。トップが1'59"台であったことを考えると、本来の力を発揮できれば優勝も狙えただろう。2人で1点という残念な結果だったが、対校選手としての責任を痛いほど感じていた。今回の反省を今後に生かし、中距離パートの底上げに貢献して欲しい。

14:35 男子 200m 決勝

3レーンに小嶋(4年)、7レーンに井上(2年)の出場。快晴で気温の高い良コンディションの中でのレースとなった。壮行会で小嶋は「この2人の勝負の行方は風が大きく左右することになるだろう」と言っていたが、今回は強い向かい風(-3.1)に見舞われることになった。100mに続いての東大勢の1.2フィニッシュが期待された。

レースが始まると両者共にいいスタートで飛び出し、ストレートに入る時点で2レーンの学芸大の選手と共に3人で先頭を引っ張る形となった。小嶋は対校400mの疲れからスピードが落ち、後方の選手に抜かれて22"42の5位で2点獲得。井上はそのままストレートで突き放して21"90で見事1位に輝き、6点を獲得した。

井上は100mでも200mでも1位に輝き、小嶋も七大戦では400mを走らず200mに照準を合わせることができるので、七大戦に向けて良いはずみになったかと思う。

15:25 男子 5000m 決勝

遠藤(3年)、松本(2年)の出場。七大戦に向けて勢いをつけるために、長距離パートの中堅を担う両選手に結果が求められる重要なレースであった。

レース序盤から先頭の選手が後続を大きく引き離し、

遠藤・松本を含む縦長の2位集団が形成された。2位集団の1000mの通過は3'17とスローペースであった。1600m地点でその集団から一人の選手が飛び出し、松本が食らいつく一方遠藤は徐々に後退し、それぞれ2000mを3'12、3'16のラップで通過。その後も展開は変わらず、続くラップは松本が3'10、3'09と徐々にペースアップするが、遠藤は3'14、3'13と周りのペースアップに対応できない。松本はラストで前の選手に後れを取り、15'49"52(ラップ3'00)の3位でフィニッシュし、4点獲得。遠藤は16'21"46(ラップ3'17)の6位でのフィニッシュで1点獲得となった。

今回はコンディションの悪い中、思わしくない結果となったが、七大戦当日も蒸し暑い中でのレースが予想される。残された期間でさらに走りを磨いてほしい。

16:10 男子4×400mR 決勝

対校男子4×400mRでは、3レーンに小嶋(4年)・村井(3年)・坂口(4年)・伊藤(3年)の走順で出場した。資格記録では、東学大、東大、埼大(東大と同タイム)、群大の順となっており、トップの資格記録をもつ東学大とは、資格記録に6秒近く差がある状態であったため、なるべく東学大に食らいつきながら、確実に埼大をかわして2着となることが目標となるレースであった。

この日はとても気温が高く、同種目が行われる16時になってもその気温の高さは応援席からも感じられるものとなっていた。また、この日はホームストレートでずっと向かい風が吹いている状態であり、ラストスパートが苦手な選手には難しいコンディションとなっていた。

レースは、一回でスタートした。一走の小嶋は200mまでを落ち着いたペースで入り、その後は群大、埼大の選手の前に出る。東学大の選手にはさらにその前を行かれ、じわじわと差を広げられはするものの、ホームストレートでは粘りを見せ、二番で二走の村井へとバトンを繋ぐ。村井は対校男子走幅跳に出場している中、試技の合間を縫って、同種目に出場した。直前まで他の競技をしていた疲れもあってか200m通過の時点で埼大、群大に抜かれそうになるも、そこから粘りを見せ、同じく二番で三走の坂口にバトンを繋ぐ。坂口は800mを専門とする選手で、ラストスパートに定評のある選手であるが、

今回は200mの入りまでも速いペースで入り、後続をじわじわと引き離す。その後、得意のスパートで後続との差を大きく広げ、四走の伊藤へとバトンを繋ぐ。残念ながら、伊藤へとバトンが渡った時点で、トップの東学大とは100m近く差をつけられており、東大が1位となるのは非常に厳しいものとなっていた。伊藤は東学大を追いかけながら、後続との差を更に広げるものの、東学大との差を縮めることはできず、3'21"06の2位でゴールし、5点を獲得した。

今大会では、4×100mRでは、テイクオーバーゾーン内でのバトン受け渡し失敗による失格があった。それを踏まえると、失格にならずに2位で5点を獲得できたことは、目論見通りである。だが、他種目の競技中であつた選手を使わざるを得なかったということはいただけない。このような事態を回避するには、今回リレーメンバーに選ばれなかった短長の選手が400mでのタイムを49秒台もしくは50秒台へと伸ばすことが必要となる。

◎フィールド種目

9:30 男子三段跳 決勝

木下(4年)、星野(1年)の出場。かなり気温が高く、強い風が吹き、良いコンディションの中での試合になった。対校選手2名が棄権したため、試技順は木下が2番目、星野が4番目である。

1回目の試技、木下は14m31を跳んだ。続いて、星野は大きな跳躍をしたものの、惜しくもファール。1回目終了時点で、木下が1位となった。2回目の試技では、木下が14m78を跳び、星野は13m80を跳んだ。この時点では、木下が1位、星野が2位となっている。3回目の試技、木下は13m51を跳んだが、星野は記録を伸ばし、13m87を跳び、3回目終了時点で、木下が1位、星野が3位である。ここで試技順が変わり、星野が2番目、木下が4番目となった。4回目の試技、星野はかなり跳べているのだが、ファールとなってしまった。続いて、木下は踏切が上手くいったものの、14m35であり、4回目終了時点でも順位は変わらず、木下1位、星野3位である。5回目の試技に入る。星野は14m09を跳び、木下は踏切がぴったり合い、14m71の記録を残した。6回目は二人ともファールとなってしまったが、見事、木下が1位で6点、星野が3位で4点を獲得し競技を終了した。

木下は関東インカレからの課題となっていた、ファールをしないということ克服できているように感じた。星野も大きな跳躍ができているので、今後の成長が楽しみである。これからも二人の活躍に期待したい。

10:00 男子ハンマー投 決勝

対校ハンマー投には加藤(M1)と佐竹(4)の出場となった。あまりハンマー投を練習出来ていないが自己ベストが30mを超えている加藤がどれくらい投げられるか、またハンマー投の試合経験が浅い佐竹は大きく記録を伸ばしてほしいところ。

加藤はフィジカルの強さを生かして安定したターンを見せ、1投目は26m50、2回目ファール、3回目25m00とまずまずの前半。佐竹はまだ不安があるのか腕が縮こまりバランスを崩して1、2投目ファール。3投目はターンを1回転のみにして19m74の自己ベストで折り返す。加藤はコツを思い出してきたのか4投目に27m92を記録して、5投目26m、6投目はファールで競技を終えた。加藤に追いつきたい佐竹は、4投目に強引ながらも2回転のターンで25m36と大きく自己記録を更新し、さらに記録を伸ばしたい5、6投目には腕を伸ばして回れるようになったものの勢いに耐えられずに惜しくもファール。

結果加藤は27m92で4位、佐竹は25m36で5位となった。特に佐竹は京大戦に向けて35mを目指していつてもらいたい。

10:30 男子棒高跳 決勝

三宅(3年)、片渕(3年)の出場。天候は晴れており、風も良く、コンディションの良い試合となった。片渕は2m80から、三宅は4m70から試技を行う。

2m80の1回目、片渕はクリアできなかったが、3回目の試技で見事成功することができた。バーの高さは3mに上がった。3mの1回目クリアできず、続く2回目も失敗となってしまった。3回目の挑戦、惜しくも成功ならず、片渕は3位で競技を終了し、2点を獲得した。4m70にバーが上がり、三宅が挑戦する。1回目の試技で見事成功し、自己ベストタイの5m10に挑戦。一回目の試技は惜しくも足がかかりバーを落とすも、二回目の試技で軽々と5m10をクリア。5m20への期待が高まる。1回

目、残念ながら成功できなかったが、高まる緊張感の中、2回目で見事クリアでき、自己ベスト及びに、東大記録を更新した。バーの高さは日本選手権標準の5m30に上がり、3回挑戦したが、惜しくもクリアできず、1位で競技を終了し、4点を獲得した。

気温が高い中での試合であったが、2人とも調子が良さそうに感じられた。

11:00 男子円盤投 決勝

円盤投には、田口(4年)、佐竹(4年)が出場した。グラウンドコンディションは、7月ということもあり暑く、複数種目に出場するとぼててしまうような天候であった。

佐竹は円盤の前にハンマー投に出場しており、練習投擲でも、右側のネットにあてるファールをしており、若干の不安があった。

1投目先に投げたのは、田口である。しかし、右側のネットにぶつけてしまい、ファールとなった。佐竹も右側のネットに当ててしまいファール。東大として良くない流れとなってしまった。2投目にはいると、田口は、本来の力を発揮して渾身の投擲を見せる。測定の結果、33m83の自己ベストとなり、応援部隊は歓喜に沸き、田口も喜んでいた。ちなみにこの記録は、田口の目標であった関カレB標準を超えている。佐竹もこの波にのれるかと思えたが、やはり円盤が右に流れてしまい、ネットに当たりながらもエリアに入り、30m83であった。3投目田口は、ファールをしてしまう。佐竹は、記録が納得いくものではなく、前からでた。この時点で、7人中、田口が自己ベストで2位となり、佐竹は4位であった。まだまだ二人とも記録を伸ばしてきそうな気配はあった。

しかし、4投目、5投目、6投目と、佐竹は右のネットにぶつけつづけてしまい記録をのばすことはできなかった。一方、田口は自己ベストを出したことで、色々試しながら3投投げたが、5投目の31m44に記録はとどまった。

結果としては、佐竹が30m83で7位、田口が33m83で2位であった。田口は七大戦に向けて弾みがついたのではないだろうか。佐竹も復調の糸口を探してほしい。

11:10 女子三段跳 決勝

内山(3年)の出場。気温は高いものの天気は良く、比較的記録の出やすいコンディションでの試合となり、自己ベストの更新が期待された。

まず、1本目の跳躍で11m63を跳び、自己ベストを更新。関カレの標準記録である11m80を目指した2本目は11m81を跳んだが、惜しくも追い風参考記録となった。その後、風を待ち記録を狙ったものの、公認記録では11m75が最高となり、惜しくも標準記録突破とはならなかった。また、対校戦としては1位に1cm差で2位であった。対校得点は4点を獲得した。

三段跳に照準をあわせて練習や調整を行ってきたわけではなかったが、自己ベストを更新し、さらに標準記録突破も目前にせまり、これからの活躍にますます期待がかかる試合となった。

12:30 男子砲丸投 決勝

八木澤(4年)と加藤(M1)の出場。12時30分からの競技開始ということもあり、強い日差しが照り付ける猛烈な暑さの中、競技が行われた。八木澤の1投目はグライドから突き出しまでが素早く11m01であった。一投目から自己ベストに近い記録が出たため自己ベスト更新の期待がかかる。加藤の1投目は投射角が低く9m67であった。八木澤の2投目は1投目よりも飛ばなかったうえファールであった。加藤の2投目は1投目よりも若干角度が高く10m08だった。八木澤の3投目、4投目、5投目はそれぞれ10m41、10m76、ファールと、1投目と比べて突き出しのスピードに欠ける投げばかりであった。加藤の3投目は2投目のフォームとほぼ変わらず10m17であった。続く加藤の4投目、5投目、6投目はそれぞれファール、10m35、10m43と、3投目までの投げと比べて少し滑らかなグライドでの投げに修正は出来たものの、全体的には6投の中で本来の実力を発揮できず、記録があまり伸びなかった。八木澤の6投目では1投目のようなキレのある投げが出来ていたが、最後まで砲丸を押し切れず11m08であった。

結果としては、八木澤、加藤は全体6人中それぞれ4位、6位であり、順位は振るわなかった。また、八木澤は3位と1m50もの差をつけられており、依然として他大学との間には大きな実力差があるため、両者には七大

戦までの残り少ない期間で一層の技術練習に励み、七大戦で得点を稼ぐことを期待する。

13:00 男子走高跳 決勝

男子対校走高跳到東大からは赤塚(3年)と永本(1年)が出場する。赤塚は練習でも190cmを安定して跳べていて、調子を上げて来ているので今回で記録の更新が期待される。永本も前回に180cmを惜しくも失敗しているので今回で達成されることが期待される。練習跳躍では赤塚は190cmを、永本は170cmを軽く越えた。二人とも調子は悪くないようだ。赤塚は190cmから、永本は170cmから跳び始める。

永本の170cm、軽く触れるも高さは出ている跳躍を見せる。175cmでは先とは変わり危なげのない跳躍でバーをクリアする。続く180cmでは1本目を失敗して、2本目では惜しい跳躍を見せる。3本目では何かを変えたように噛み合わない跳躍をしまい残念ながら失敗となる。

赤塚の跳び始めの190cmでは跳びなれた様子で余裕のクリアをする。195cmでも問題なくクリアをする。自己記録となる198cmでも、ベストとなることを感じさせない跳躍でクリアする。続く本人の目標となる200cmを超える202cmの跳躍では、1本目では失敗。2本目では、跳ぶも背面跳びにならずバーを落とす。3本目ではバーより高く跳ぶもクリアに失敗して落としてしまう。結果は2位で、5点の獲得であった。

永本は180cmの感触は前回よりも良かったと語り、次回での更新が期待される。赤塚は自己記録を更新するも、満足はしていないため、次の機会での200cmの跳躍に期待される。

14:30 男子やり投 決勝

やり投には佐竹(4年)、石田(2年)が出場。東京学芸大学の2名は50mを超えるベストを持っており、彼らの投擲にどれだけ肉薄できるかが勝負のカギとなる。また四大戦は七大戦出場権が決まる重要な試合であり、パート内の競争が激しくなる中、石田にとっては絶対に失敗できない試合だ。なお佐竹は肘が痛む八木澤に代わって出場した。

佐竹は1投目にいきなり36m23を記録し、急な出場を感じさせない丁寧な投擲を披露した。しかしその後はバランスを崩して槍に力が伝わらず思い通りの投擲ができなかった。かろうじて白旗が上がった6回目も34m30にとどまり、6人中4位で競技を終えた。

石田は1投目に43m37、3投目には44m57をマークし国公立戦に続いて自己ベストを更新した。6回とも様々なフォームを試行錯誤しながらも4回目以外は40mを超え、55mを超えた東京学芸大学の選手に続く3位で、七大戦へ順調な仕上がりを見せた。

このほかにもOPで出場した選手も好成績を残しており、パート内の選手層が厚くなりつつある。強い選手が集まる七大戦では厳しい戦いとなるが、このまま好調を維持すれば善戦は可能だろう。

14:30 男子走幅跳 決勝

東大からは村井(3年)、栗原(2年)が出場。風は基本的に追い風、板は粘土板ということで、ファールを誘うかのようなコンディション。

栗原は一本目、わずかに緑を踏んでしまったが7mに迫る大きな跳躍。村井は6m77を一本目にマーク。まだまだ記録は狙える。栗原は二本目、踏み切らずに走り抜けて5m03。どうして走り抜けたのだろうか。一方、村井は6m57で記録を伸ばせず。三本目、ここにきて栗原は6m87まで記録を伸ばす。村井は6m41。四本目、栗原はファール、村井は6m59。続いて五本目、栗原は5m15でまたもやうまく踏み切れなかったが、村井はここで6m80をマークし、記録を伸ばす。村井は5本目と6本目の間に4×400リレーの2走を務め走り切ったが、跳ぶ体力はさすがに残っておらず、跳べずにファール。6本目、最後の試技である栗原、6m87を3本目で跳んで以来まだ記録を出していない中、三本目を超える大ジャンプ。7mを超えたかどうかきわどいラインではあったが、惜しくも6m94で一位に2cm及ばず。

結果、栗原は6m94の2位で5点、村井は6m80の3位で4点を獲得した。

3. 選手の言葉

短距離2年 本田洋平 (110mH,400mH)

今回、対校110mH、400mHに出場させていただきました。短距離二年の本田です。110mHは今季3レース目、400mHは今季初レースでした。先の国公立戦の1週間ほど前に左足のハムストリングスおよび足の甲を痛めてしまい、国公立戦には出場したもののそれ以降四大戦の5日前までは走練習およびハードル練習はほぼ行っていませんでした。無理に出場して怪我を悪化させるリスクを負うか七大戦に向けて回復を優先させるか迷いましたが、得点を取って勝利に貢献することを目標にして出場することにしました。

110mHでは向かい風が非常に強く、また自身向かい風の中でのレースが初めてだった事もあり、完走できるのか不安な部分がありました。しかし特に崩れる部分もなく風を考えると無難にまとまったと思います。結果は3位でしたが、資格記録3、4番手の人にたまたま勝てただけだと思うので、七大戦で大幅なベスト更新をして得点に絡めるよう、ここから練習を積んでいきたいです。

400mHに関しては、走り込みが全くできていないためにタイムが期待できなかったのが正直なところ出場しなかったのですが、完走するだけで得点が取れるとわかったので出ることにしました。前半は追い風の影響もあってインターバルがつまりつつもベストを出した時と同じくらいのペースで走っていましたが、ラスト100mでストライドが縮まってしまい撃沈しました。しかし、走り込みができていない状態でUBを更新できたのは予想外の収穫だったので、前向きに捉えてこちらも七大戦に向けて練習を積んでいきたいです。

結果として怪我は特に悪化せず、110mHでは下馬評を覆すこともできましたが、全体として学芸大に勝つことはできませんでした。二種目あるハードルで得点があまり取れないことはチームにとって大きな打撃となってしまいます。今後は七大戦、そして京大戦に向けてより一層練習に励んでいきたいと思います。これからも応援をよろしくおねがいします。

競歩1年 保田亜久利 (5000mW)

5000mWに出場させていただきました。このシーズンは一定のペースで刻む練習を繰り返し、リズムに乗って後半も楽に歩けることを目標として過ごしてきました。しかし今回のレースはリズムだけでは勝ちきれないものとなりました。それは高校の陸上を引退してからしばらく忘れていたレース展開という試合の大きな要素の一つでした。レース展開の大切さは頭のなかではわかっていますが、この面白さばかりはレースに出てみなければ思い出せませんでした。先頭集団に絡んでいるときの、気持ちの高まりと、たまに見え隠れする冷静さがほんの数秒の間にごった返し、心の温度のジェットコースターに背中を押されて前に進んでいく感覚。高校の最後のレースで感じたものと似ていました。結局そのレースも今回のレースも、最後はスパートをしかけられて負けてしまいました。東大陸上部の良いところは一緒に練習できる仲間や先輩がいることです。普段の練習でもこのレース感覚を意識して練習することも可能です。今後はラストの競りでも勝ちきれぬ強靭さを求めていきたいと思います。今回の記録は高校ベストとほぼ同じタイムでした。やっとスタートラインに立てたという状況です。これから4年間どんどんベストを更新して、ばんばんこの大学に貢献していきたいと思います。貴重な体験をありがとうございました。

跳躍3年 三宅功朔 (棒高跳)

6月9日国公立戦、6月16日個人選手権と向かい風の試合が続いたが5m00、5m10と悪くない記録で収まっていたので、風さえ追えばさらに跳べるかもしれない状態だった。個人選手権の後10日程度練習した時点で強めの筋肉痛になり練習量を落としたので、調整面でも良い状態に持ってこられたと思う。5m20は4年ぶりの自己ベストだった。

関東インカレ前に新たに取り組み始めた跳躍技術がだんだんと身に付いてきた。これまではポールをあまり曲げないような、高い踏み切りを目指していた。5月から新しいコーチのもとで前方向に低く踏み切りポールのバンドを大きくして、ポールの反発を生かして高く跳ぶ

という跳躍を志向するようになった。前者は日本で長い間正しいとされてきた方法で、後者は海外選手のやり方を取り入れたリベラルな技術である。

私は今、後者の方法でうまくいっているが、前者の方法で香川の中高生が普遍的に強くなるのをずっと見てきた。私もその一人である。高い踏み切りからそのまま高い跳躍をするという当たり前の技術、あえて低く踏み切ってバンドをつける技術、どちらが正しいということとはぶんなく、それぞれのいい部分を理解する必要があると感じる。次の高さ5m30に向けて戦略を考えなければならぬ。

最後になりましたが、応援・サポートありがとうございました。

長距離4年 油井星羅 (1500m)

対校1500mに出場させていただきました。長距離4年の油井です。今大会での目標は「対校初得点かつPBの達成」で、七大戦での活躍に繋がるようなパフォーマンスと結果を求めていました。資格記録でも下の方であったため、上位者をどれだけ倒せるかという意味でも七大の前哨戦と位置づけていました。

風がある中のレースで、中盤まではスローペースの推移。ここでは集団の後方で力を溜め、ラスト500mから始まった先頭のビルドアップにしっかり対応しました。最後は800系の格上選手2人に離されてしまいましたが、ラスト300mを44"でカバーするなど、悪くないパフォーマンスで最後まで勝負に徹する走りことができました。

スロー展開の影響で4'12"00というタイムになったことは仕方ないのですが、七大戦ではもう十数秒速く走れないと得点圏に入れないため、今回の走りに満足はできません。残された期間は短いですが、3分台を出すための良い準備を行い、七大戦で東大の勝利に貢献できるよう、気を引き締めていきたいと思います。ありがとうございました。

投擲4年 田口広太郎 (円盤投)

男子対校円盤投に出場させていただきました4年の田口です。今大会は七大戦へ向けて自己の投擲を確認する

とともに、ライバルの東京学芸大学の円盤投選手二人に勝ち得点する目的で出場いたしました。

試合当日は2投目で自己記録を更新し、関東インカレのB標準を突破することが出来ました。5月以降下半身の力を腕に伝えることを徹底して鍛錬を積んできたため、その成果を出すことができたと考えております。

3投目以降も自己記録を伸ばす自信がありました。しかし、速い回転を生み出そうという意識からか軸が崩れ、腕の力で投げる小さな投擲となってしまいました。チャンスを大きくつぶしてしまったと深く反省しております。

結果として全体2位、5点を獲得することが出来ました。学芸大の2人にも勝利することができ、円盤投では勝ち越すことが出来たため、この点に関しては満足しております。今回の記録が七大戦の得点ラインになると考えております。期間は短いですが筋力、技術ともに最高レベルのパフォーマンスで七大戦に向かい、表彰台に乗れるよう努めてまいります。

4. 試合結果

第42回国立四大学対校陸上競技大会

男子100m決勝(-2.3)

1	井上 昂	東京大	11"01
2	阿久津 大貴	東京大	11"11
3	荒谷 亘彦	東学大	11"22
4	服部 翼	埼玉大	11"25
5	澤田 悠貴	群馬大	11"43
6	中野 紘史郎	東学大	11"52
7	野尻 達	埼玉大	11"57
8	惣野 陽介	群馬大	11"82

男子200m決勝(-3.1)

1	井上 昂	東京大	21"90
2	直井 貴哉	東学大	22"28
3	中野 紘史郎	東学大	22"39
4	澤田 悠貴	群馬大	22"39

5	小嶋 健太郎	東京大	22"42
6	盛合 一将	埼玉大	23"19
7	根岸 蒼	群馬大	23"45
	服部 翼	埼玉大	DNS

男子400m決勝

1	杉山 雅俊	東学大	50"13
2	水元 大雅	埼玉大	50"53
3	太細 裕斗	埼玉大	50"62
4	小嶋 健太郎	東京大	50"70
5	伊藤 康裕	東京大	51"73
6	春日 明日実	群馬大	51"73
7	村上 寛明	群馬大	53"32
	太田 健人	東学大	DNS

男子800m決勝

1	室井 颯人	群馬大	1'59"34
2	中島 福尚	東学大	2'00"98
3	林田 祥志	埼玉大	2'01"25
4	山根 丈幸	群馬大	2'01"77
5	町田 勢芽	埼玉大	2'02"75
6	池野 諒	東京大	2'03"43
7	山口 希望	東学大	2'04"78
8	玉木 丞	東京大	2'07"14

男子1500m

決勝

1	室井 颯人	群馬大	4'10"92
2	中島 福尚	東学大	4'11"05
3	油井 星羅	東京大	4'12"00
4	古賀 淳平	東京大	4'12"44
5	鈴木 大翔	埼玉大	4'20"42
6	林 伸幸	埼玉大	4'22"59
7	山根 丈幸	群馬大	4'23"81
	山口 希望	東学大	DNS

男子5000m決勝

1	山田 幸輝	埼玉大	15'02"64
2	秋元 皓志	埼玉大	15'46"43
3	松本 郁也	東京大	15'49"52

4	入野 翔太	東学大	16'01"89
5	長野 朋宏	東学大	16'07"26
6	遠藤 正陽	東京大	16'21"46
7	長谷川 将万	群馬大	17'17"60
	久慈 清太朗	群馬大	DNS

男子 110mH 決勝(-4.2)

1	前三盛 喬貴	東学大	15"43
2	松尾 祐哉	群馬大	15"54
3	本田 洋平	東京大	16"16
4	滝口 康成	東学大	16"41
5	本間 颯	埼玉大	16"42
6	増田 多聞	東京大	16"86
7	和知 悟志	埼玉大	17"21

男子 400mH 決勝

1	吉田 京平	東学大	51"85
2	田邊 ジョー	東学大	54"24
3	本間 颯	埼玉大	55"05
4	柏木 龍太	東京大	57"54
5	本田 洋平	東京大	57"89

男子 3000mSC 決勝

1	林田 祥志	埼玉大	9'22"33
2	入野 翔太	東学大	9'26"89
3	栗山 一輝	東京大	9'38"88
4	内山 凌	埼玉大	9'54"42
5	阿部 飛雄馬	東京大	10'02"73
6	望月 大輝	東学大	10'08"94
7	久慈 清太朗	群馬大	10'22"75
8	高橋 佑輔	群馬大	10'43"30

男子 5000mW 決勝

1	秋野 光哉	東学大	23'34"39
2	保田 亜久利	東京大	23'44"28
3	松原 亘希	東京大	25'46"66
4	浅水 丈拓	埼玉大	25'57"13
	青山 福泉	東学大	DNS

男子 4×100mR 決勝

1	東学大	前三盛—増田—直井—古川	41"01
2	群馬大	根岸—中村—市毛—澤田	42"87
	埼玉大	野尻—盛合—横倉—服部	DNF
	東京大	竹井—阿久津—井上—村井	DQ

男子 4×400mR タイムレース 決勝

1	東学大	池内—狩野—田邊—吉田	3'11"30
2	東京大	小嶋—村井—坂口—伊藤	3'21"06
3	埼玉大	本間—太細—盛合—水元	3'25"04
4	群馬大	市毛—春日—村上—松尾	3'26"25

男子 走幅跳 決勝

1	中島 広海	東学大	6m96(+3.5)
2	栗原 怜也	東京大	6m94(+2.6)
3	村井 輝	東京大	6m80(+1.6)
4	高橋 雄哉	東学大	6m49(+4.0)
5	筆脇 智宏	埼玉大	6m45(+2.2)
6	千木良 雅也	群馬大	6m43(+1.0)
7	小林 秀輔	埼玉大	6m31(+0.4)
8	都丸 裕矢	群馬大	5m81(+1.0)

男子 走高跳 決勝

1	佐藤 日彦	群馬大	2m01
2	赤塚 智弥	東京大	1m98
3	小林 秀輔	埼玉大	1m95
4	雨宮 大樹	東学大	1m85
5	松本 大輝	群馬大	1m80
5	和知 悟志	埼玉大	1m80
7	永元 裕貴	東京大	1m75
8	中田 健太	東学大	1m75

男子 棒高跳 決勝

1	三宅 功朔	東京大	5m20
2	本橋 輝久	東学大	4m50
3	片渕 大成	東京大	2m80
	菅沼 舜	東学大	NM

男子 三段跳 決勝

1	木下 秀明	東京大	14m78(+1.1)
---	-------	-----	-------------

2	ムア アレクサンダー カイ	東学大	14m30(+3.1)
3	星野 祐輝	東京大	14m09(+3.0)
4	千木良 雅也	群馬大	13m50(+1.7)
	窪田 章吾	東学大	DNS
	佐藤 日彦	群馬大	DNS

男子 砲丸投 決勝

1	栗本 恭宏	東学大	14m73
2	矢口 幸平	埼玉大	13m29
3	斉藤 真	東学大	12m64
4	八木澤 光大	東京大	11m08
5	岡田 一真	埼玉大	11m07
6	加藤 輝仁	東京大	10m43

男子 円盤投 決勝

1	矢口 幸平	埼玉大	41m14
2	田口 広太郎	東京大	33m83
3	落合 健太	群馬大	31m70
4	北脇 恭介	東学大	31m15
5	岡田 一真	埼玉大	30m04
6	山下 黎	東学大	30m93
7	佐竹 俊哉	東京大	30m83

男子 ハンマー投げ 決勝

1	矢口 幸平	埼玉大	38m87
2	桶川 雅毅	東学大	37m02
3	落合 健太	群馬大	32m01
4	加藤 輝仁	東京大	27m92
5	佐竹 俊哉	東京大	25m36
6	岡田 一真	東学大	21m16

男子 やり投 決勝

1	桶川 雅毅	東学大	55m17
2	藤原 友弥	東学大	55m07
3	石田 駿平	東京大	44m57
4	佐竹 俊哉	東京大	36m23
5	唐木 結也	埼玉大	34m61
6	盛合 一将	埼玉大	32m61

総合得点

主管校から、正式な総合得点が送られてきていないため、次号の部便りに今回の四大戦の総合得点を掲載させていただきます。誠に申し訳ありません。

女子 三段跳 決勝

1	飯田 詩央	東学大	11m82(+2.1)
2	内山 咲良	東京大	11m81(+2.4)
3	飯野 綾	埼玉大	11m42(+2.2)
4	磯部 未侑	東学大	11m38(+0.9)
5	早田 純菜	埼玉大	11m18(+1.5)

総合得点

主管校から、正式な総合得点が送られてきていないため、次号の部便りに今回の四大戦の総合得点を掲載させていただきます。誠に申し訳ありません。

5. 自己記録更新者一覧

6/23 第68回平成国際大学長距離競技会

800m	堀越美菜(4年)	2'47"07
800m	町田黎子(1年)	2'49"85
1500m	堀越美菜(4年)	5'34"27
1500m	古賀淳平(3年)	4'05"49
10000m	道岡聖(1年)	33'18"82
10000m	福元啓悟(1年)	33'33"80
10000m	加藤悠生(1年)	33'38"65
10000m	加藤泰斗(1年)	34'32"65
10000m	一柳里樹(3年)	35'11"15

6/24 第13回M×Kディスタンスチャレンジ

5000m	小林龍史(4年)	15'53"2
5000m	長田将(4年)	15'54"5
5000m	榊村浩行(2年)	15'59"8

7/1 第4回日本大学競技会

100m 野々田聖一(4年) 11"64(+2.0)

7/7 ホクレン・ディスタンスチャレンジ北見大会

10000mW 堀江駿(4年) 44'36"69

10000mW 後藤潤平(3年) 42'22"00

7/8 第43回国立四大学対校陸上競技大会

200m 斎藤嘉紀(4年) 23"38(-2.6)

200m 杉本恭一(4年) 24"63(-2.6)

400m 斎藤嘉紀(4年) 53"04

110mH 増田多聞(1年) 16"86(-4.2)

400mH 柏木龍太(2年) 57"54

800m 岩室真央(1年) 2'07"10

1500m 佐藤魁(1年) 4'21"76

1500m 小河弘樹(1年) 4'22"35

3000mSC 栗山一輝(3年) 9'38"88

5000mW 保田垂久利(1年) 23'44"28

5000mW 松原亘希(1年) 25'46"66

棒高跳 片渕大成(3年) 2m80

棒高跳 三宅功朔(3年) 5m20

走高跳 赤塚智弥(3年) 1m98

6. 2018年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

1 井上昂(2年) 10"77(+1.0) 5.6
 2 阿久津大貴(3年) 10"90(+0.7) 5.6
 3 村井輝(3年) 10"96(-0.7) 5.24
 4 星野祐輝(1年) 11"27(+0.7) 6.9
 5 伊藤康裕(3年) 11"28(+0.2) 5.5

男子 200m

1 小嶋健太郎(4年) 21"84(+0.7) 6/9
 2 井上昂(2年) 21"90(+1.4) 5/6
 3 阿久津大貴(3年) 22"54(-3.6) 7/8
 4 伊藤康裕(3年) 22"68(+1.2) 6/9
 5 岩崎誠倫(2年) 22"69(+1.5) 6/3

男子 400m

1 小嶋健太郎(4年) 50"20 4.30
 2 坂口諒(4年) 50"25 6.9
 3 伊藤康裕(3年) 50"64 5.5
 4 村井輝(3年) 50"66 5.2
 5 岩崎誠倫(2年) 50"83 6.9

男子 800m

1 坂口諒(4年) 1'55"12 4.21
 2 小野康介(3年) 1'55"60 4.21
 3 近藤秀一(4年) 1'56"56 3.17
 4 伊藤龍一郎(4年) 1'58"81 3.17
 5 八ツ本真司(3年) 2'01"01 5.12

男子 1500m

1 近藤 秀一(4年) 3'54"19 6/9
 2 阿部 飛雄馬(3年) 4'05"40 6/23
 3 古賀 淳平(3年) 4'05"49 6/23
 4 油井 星羅(4年) 4'07"50 3/18
 5 榊村 浩行(2年) 4'07"57 5/12

男子 5000m

1 近藤秀一(4年) 14'12"17 4/7
 2 阿部飛雄馬(3年) 15'10"06 7/1
 3 栗山一輝(3年) 15'26"75 6/3
 4 松本郁也(2年) 15'26"77 3/31
 5 岩崎諒介(4年) 15'36"49 6/3

男子 10000m

1 近藤秀一(4年) 29'41"74 5/27
 2 道岡聖(1年) 33'18"82 6/23
 3 福本啓悟(1年) 33'33"80 6/23
 4 加藤悠生(1年) 33'38"65 6/23
 5 古賀淳平(3年) 33'47"88 6/2

男子 110mH

1 本田洋平(2年) 15"80(+1.6) 6.9
 2 松田光陽(3年) 16"17(+1.6) 6.9
 3 村井輝(3年) 16"44(-5.1) 5.25
 4 増田多聞(1年) 16"86(-4.2) 7/8

男子 400mH

1 松田光陽(3年)	55"66	6/9
2 柏木龍太(2年)	57"54	7/8
3 本田洋平(2年)	57"89	7/8

男子 3000mSC

1 栗山一輝(3年)	9'38"88	7/8
2 大庭帆貴(2年)	9'52"25	5/5
3 阿部飛雄馬(3年)	10'02"73	7/8
4 古賀淳平(3年)	10'04"55	3/23
5 肱岡佑(4年)	10'35"83	7/8

男子 5000mW

1 千菊智也(2年)	22'53"26	6.9
2 保田垂久利(1年)	23'44"28	7/8
3 松原亘希(1年)	25'46"66	7/8

男子 10000mW

1 後藤潤平(3年)	42'22"00	7/7
2 堀江駿(4年)	44'36"69	7/7
3 千菊智也(2年)	45'45"95	5/26

男子 4×100mR

1 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	40"89	5/24
2 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	41"03	5/25
3 村井(3)-阿久津(3)-井上(2)-伊藤(3)	41"90	4/7

男子 4×400mR

1 小嶋(4)-村井(3)-坂口(4)-伊藤(3)	3'21"06	7/8
2 伊藤(3)-岩崎(2)-近藤(2)-松田(3)	3'23"27	6/9
3 小嶋(4)-岩崎(2)-近藤(2)-伊藤(3)	3'28"37	4/7

男子走幅跳

1 木下秀明(4年)	7m12(-1.2)	4/7
2 栗原怜也(2年)	6m87(+1.6)	7/8
3 村井輝(3年)	6m80(+1.6)	7/8
4 星野祐輝(1年)	6m75(+0.2)	6/9
5 平井智史(3年)	6m53(-1.3)	4/7

男子三段跳

1 木下秀明(4年)	14m93(+0.9)	5/26
2 平木基人(4年)	14m13(+3.6)	5/26
3 星野祐輝(1年)	14m09(+3.0)	7/8
3 原澤龍平(3年)	13m91(-0.2)	5/6
4 毛利冬悟(4年)	13m86(+2.2)	7/8

男子走高跳

1 赤塚智弥(3年)	1m98	7/8
2 木下秀明(4年)	1m90	6/9
3 永本裕貴(1年)	1m75	7/8
3 渡部智博(1年)	1m75	7/8

男子棒高跳

1 三宅功朔(3年)	5m20	7/8
2 戸部潤一郎(4年)	3m70	6/9
3 村井輝(3年)	3m30	5/25
4 片渕大成(3年)	2m80	7/8

砲丸投

1 八木澤光大(4年)	11m27	6.9
2 中村優太(2年)	10m15	6.9
3 村井輝(3年)	9m42	5.25

円盤投

1 佐竹俊哉(4年)	33m46	5.26
2 田口広太郎(4年)	32m27	5.6
3 村井輝(3年)	21m95	5.25
4 友藤彰紀(2年)	15m40	6.9

やり投

1 石田駿平(2年)	44m30	6.9
2 八木澤光大(4年)	43m98	6.9
3 中村優太(2年)	41m64	4.7
4 村井輝(3年)	39m67	5.25
5 友藤彰紀(2年)	26m30	6.9

女子 100m

1 内山咲良(3年)	12"64(+1.6)	6.9
------------	-------------	-----

女子 400m

1 高石涼香(4年) 59"50 6.9

女子 800m

1 高石 涼香(4年) 2'10"92 5/26
 2 花淵 真生(1年) 2'45"61 6/23
 3 堀越 美菜(4年) 2'47"07 6/23
 4 町田 黎子(1年) 2'49"85 6/23

女子 1500m

1 高石 涼香(4年) 4'35"34 3/24
 2 藤原 ゆか(4年) 5'01"15 4/21
 3 荒木 玲(4年) 5'20"17 5/12
 4 堀越 美菜(4年) 5'45"49 7/8

女子 3000m

1 高石涼香(4年) 10'17"39 6.9
 2 藤原ゆか(4年) 10'37"31 5.12

女子走幅跳

1 内山咲良(3年) 5m53(+1.4) 5.6

女子三段跳

1 内山咲良(3年) 11m82(+2.1) 7/8

7. 2018年度 東大記録更新者一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)
 800m 高石涼香(4年) 2'10"92 4.22
 三段跳 内山咲良(3年) 11m75(+2.0) 7.8

8. 主務より

8.1 応援 OB・OG 紹介

応援 OB・OG 紹介

7月8日に大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場で行われました第42回国立四大学対校陸上競技大会兼第24回国立四大学対校女子陸上競技大会に際し、応援に駆けつけてくださいました OB・OG の方のご氏名をご卒

業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和 42 年卒 林義之
 昭和 54 年卒 中谷敬二
 昭和 63 年卒 寺田秋夫
 平成 3 年卒 小野満
 平成 13 年卒 岡野浩行
 平成 15 年卒 橋本武
 平成 22 年卒 西川鋭
 平成 23 年卒 西田昂広
 平成 26 年卒 堀田樹生
 平成 29 年卒 阿部龍太郎
 平成 29 年卒 加藤騎貴
 平成 29 年卒 軽部智
 平成 29 年卒 森本淳基
 平成 30 年卒 岸康太
 平成 30 年卒 後藤裕瑛
 平成 30 年卒 寶田雅治
 平成 30 年卒 土井雅人
 平成 30 年卒 早川航平
 平成 30 年卒 菱川遼悟
 平成 30 年卒 吉田侑弥

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、部員一同、心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

7.28(土)～7.29(日)	七大戦@札幌厚別公園
8.26(日)	一橋戦@駒場
9.6(木)～9.9(日)	日本 I.C. @等々力
9.24(月祝)	京大戦@山城
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川
11.10(土)	皇居周回駅伝

8.3 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: utfbdyri2017@gmail.com)